

令和 6 年 10 月第 13 回 松阪市教育委員会定例会会議録

令和 6 年 10 月 16 日（水）教育委員会室

議決事項

議案第 17 号 松阪市立学校における学校運営協議会の設置及び運営に関する規則の一部改正について

報告事項

報告第 38 号 令和 6 年 9 月議会について

報告第 39 号 松阪市における全国学力・学習状況調査の結果分析について

報告第 40 号 令和 6 年度 9 月児童生徒の問題行動等について

出席者

教育長	中 田 雅 喜
委員（教育長職務代理者）	服 部 美由紀
委員	松 江 茂
委員	安 岡 幹 根
委員	松 岡 曜 子

出席事務局職員

事務局長	刀 根 和 宜
事務局次長	金 谷 勝 弘
教育総務担当参事兼教育総務課長	西 浦 有 一
学校教育課長	三 田 篤
学校支援課長	小 泉 恵 希
子ども支援研究センター所長	御 堂 栄 治

午後 1 時 30 分 開会

○教育長

ただいまから令和 6 年 10 月第 13 回松阪市教育委員会定例会を開会いたします。

傍聴の申し出はございませんでしたので、ご報告申し上げます。

それでは、事項書に従いまして、進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

まず、議案第 17 号「松阪市立学校における学校運営協議会の設置及び運営に関する規則の一部改正について」の提案理由を事務局から説明願います。

（学校支援課長から説明）

○教育長

事務局からの説明に対し、質疑、意見はございませんか。

運営協議会は、すべての学校で設置されていますね。

◎事務局

令和6年度をもって、市内すべての小中学校に学校運営協議会（コミュニティ・スクール）が設置されました。今後、地域・家庭と連携をした取組については、すべてコミュニティ・スクールになっておりますので、地域や家庭との連携を大切にしながら、取組を進めていきたいと考えております。

○教育長

他に質疑、意見はございませんか。

(委員から「なし」の声)

○教育長

質疑なしと認め、これより討論に入ります。

討論はありませんか。

(委員から「なし」の声)

○教育長

討論なしと認め、これより採決に入ります。

議案第 17 号を可決することに賛成の方の挙手を求めます。

(委員の挙手)

○教育長

挙手全員でございます。

よって議案第 17 号は、原案どおり可決いたしました。

✕✕✕

○教育長

議決事項が終了いたしましたので、報告事項に入ります。

報告第 38 号につきまして、事務局から説明願います。

38. 令和6年9月議会について

(報告第 38 号 教育総務課長から説明)

○教育長

事務局からの説明に対し、質問、意見はございませんか。

◆委員

請願を受けた後は、どんな運びになるのか教えてください。

○教育長

請願というのは、市民の方が議会に対して、例えば「先生の数を増やして欲しい。」というような意見や希望を述べることを言います。請願を受けて、議会で採択、不採択の決定をします。採択した請願は、市議会議長名で、国等の関係機関に意見書を提出するとともに、市からも、市長名で国等の関係機関に上申書を提出します。

他によろしいでしょうか。

(委員から「なし」の声)

○教育長

質問等が終了いたしましたので、報告第 38 号を承認したいと思います。いかがでしょうか。

(委員から「異議なし」の声)

○教育長

異議なしと認めます。よって、報告第 38 号は承認いたしました。

次に、報告第 39 号及び報告第 40 号につきまして、事務局から説明願います。

39. 松阪市における全国学力・学習状況調査の結果分析について

40. 令和 6 年度 9 月児童生徒の問題行動等について

(報告第 39 号及び報告第 40 号 学校支援課長から説明)

○教育長

事務局からの説明に対し、質問、意見はございませんか。

◆委員

このテストは、問題数や問題の出し方が、普段学校でするテストと明らかに違います。塾などであれば、あるのかもしれませんが、塾に行っていない子どもたちは見慣れていないと思うので、過去の問題をいただいて、やってみるというようなことは、学校の中でされているのでしょうか。

◎事務局

「全国学力・学習状況調査」の問題については、少し普段のテストとは異なるような様式になろうかと思います。こういった部分については、三重県教育委員会が実施している「みえスタディ・チェック」といった学力テストの問題等があります。こちらは、過去に出された問題と類似した問題もあり、子どもたちがどこの部分に課題があって、どこに注力していかないといけないのかが把握できるようなものや、或いは「学 Viva (まなびば) セット」という三重県教育委員会が作成したワークシート的なもの等もございますので、そういったものを活用しながら、子どもたちが、様式に慣れていなくて本来の力が図れない、ということがないように、学校でも丁寧に取り組を進めております。

◆委員

受験の時に、こういった問題形式で出ることが多いので、慣れておくことがとても大事だと、親としても思います。学校見学に行ったら思ったのは、経験している学校は強い、経験していない学校は弱いとならないように、私たち親が、何か気付けるところや、声をかけられるところがあるのであれば、と思ったので、今回お伺いしました。

○教育長

中学校の先生は自分たちで問題を作りますが、小学校の先生は、すべての教科を受け持っており、問題を作ることが大変ですので、小学校の先生の多くは、業者が作っている問題を活用させてもらっています。

要は、そこも随分変わってきていますし、問題も変わってきています。ただ、入試がこれにぴったりかという、入試は、答えが 1 つだけになります。また、入試でこの量を読むのは難しいということで、活用問題や複合問題は沢山ありますし、三重県教育委員会のほうに、入試の改革を進めていただくよう話をしていますが、あまり複雑になる

と今度は採点が大変になります。

◆委員

今度から、自動採点システムを活用するという話を聞いています。少しずつ、こういった、文章をきちんと読んで解いていくとか、確実に資料をみて何かをする、というような問題が増えてきていますね。

○教育長

他によろしいでしょうか。

◆委員

全国平均を上回っていますし、県内でみても非常に素晴らしい結果となっており、これは現場の先生方や教育委員会等のご努力の結果だと思います。

このような結果が出ている要因というか秘訣はどういうところにあるのか、他の自治体と比較して、もしくは先駆けて実施していることや、ポイントを置いている部分などがありましたら、教えてください。

◎事務局

小学校では9年連続で2教科平均を上回っておりますし、中学校においても2年連続で上回っております。要因と考えている取組についてですが、まず一つには、小学校の3年生から5年生まで、或いは中学校1年生、2年生で実施している「松阪市標準学力調査」や「Q-U（学級満足度尺度調査）」を、クロス集計・クロス分析して、子どもの学力や学習状況等について、課題を早い段階で把握して対応していく、そういった取組をしております。昨年度までは「未来を切り拓く学力向上タスクフォース」による授業改善、授業をどのように進めていけばいいか、というような部分の方策について研究して各学校に働きかける、そういった取組を実施しております。

平成31年度以降「未来を切り拓く力育成シート」を各学校で作成し、教員が協議をしたり、考えたりする機会を設けて、評価のあり方や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりについて、組織的に取組を進めてきているというのもあるかと思えます。

また、退職された校長等で、教科に堪能な方を、学力向上に関するアドバイザーとして学校に派遣したり、市教委に在籍している指導主事等も積極的に学校に派遣したりして、各学校の研修の場を支援しております。さらに、中学校の方でも成果が出てきている部分については、中学校教科担当者会議を開催して、各教科の教員に、こういうことが大事だという部分をしっかりと伝えたり、教務担当者会議を開催して連携を図ったりしております。

なお、本市については、やはりICTの活用についても先進的な取組を進めておりますので、タブレット端末の活用についても、学校・家庭が連携した丁寧な取組がなされているかと思えます。

○教育長

「本居宣長さんの教え」について説明してください。

◎事務局

こちらの「本居宣長さんの教え」というリーフレットを各学校、子どもたち、保護者に配っております。学校・家庭・地域が連携をした取組で、「5つのチャレンジ」には、

「生活習慣を確立する」や、「主体的に学ぶ」といった取組について、毎年度、その年度の全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえて、どういったことをその年度に大事にしていこうかということ協し働きかけをしております。特に、中面においては、学校・家庭・地域の役割を提案しております。また、裏面には、冷蔵庫の側面とか前に貼ってもらうような形で「Go5（ゴーゴ）チャレンジデー」というのを提案しており、寝る時間であるとか、学習する時間、読書する時間について、家庭で相談してもらいながら、そういった生活習慣等を支えていくための取組を進めております。

○教育長

12 ページに、成果につながったと考えられる松阪市の取組が記載されていますが、やはり一番大きいのは教員の意識改革かなと思います。誰一人取り残さないように、特に、平均点を上げるとかそういうことではなく、弱い子どもたちに寄り添っていくという思いと、もう一つは ICT を取り入れて、効果的な活動、子どもたちの学びができてきた、という部分だと思います。ただ、その辺りで伸びてくるのは、真ん中か少し上の層になります。日々の授業ので、少し下の層も上げていけるように教員は力を入れています、ただ、よくできる子から、わからない子までが一つの学校にいる、というのが義務教育です。高校になると、ある程度、ターゲットの幅が狭くなるので特化しやすいのですが、ただ、この場合もやはり真ん中か少し下に焦点を当てた授業にしていきます。そしてこちら辺から、自己調整学習や自学といった部分の力も出てくることになると思いますので、本市としては ICT を取り入れて、個別最適な学びとして支援しています。その辺りが、効果的にできてきたのかなと思います。

◆委員

7 ページと 8 ページの、質問調査の集計結果のところ、①基本的な生活習慣等の、例えば (5)、(6) あたりは、ゲームや SNS、動画視聴などについて、普段から 1 日当たり 1 時間以内という子どもの割合は全国平均よりも低いということですね。ということは、よく使っているという意味ですね。それから、③学習習慣、学習環境等のところ、平日の勉強時間、休日の勉強時間、それから新聞を読んでいる回数という項目がありますが、これはもう学校生活だけでは、なかなか成り立たない部分だと思うのですが、教育現場として何か改善に向けた方策があれば教えてください。

◎事務局

先ほどご指摘をいただいた、特に 7 ページの (5)、(6) のような、ゲームをしたり、SNS をしたりというところは、本当に経年的な課題となっております。GIGA スクール構想による一人一台端末の貸与が開始される以前から、この質問については、1 時間より少ないと回答した児童生徒の割合が全国を下回っている状況です。テレビゲームの時間については、先ほどの「本居宣長さんの教え」のリーフレット等でしっかりと提案の方もしております。ただ、昨今の状況から、テレビや動画、ゲーム、SNS といったデジタルコンテンツの活用は、現在の子どもたちが自由時間を楽しむための一つの手段であり、他人とのコミュニケーションや情報の取得といった観点からも重要な存在であるということも把握しております。

ただ、何事も度を過ぎれば問題となることから、特に学齢期の子どもたちにとっては、遊びなどリラクゼーションだけでなく、学習時間の確保や視力低下などの健康問題も課

題となってきております。そこで、本市では「松阪市タブレット端末活用のルール」や「わが家のスマホ・ケータイ使用のルール」といったリーフレット等も作成し、タブレット端末を使用する時刻を制限したり、家庭と連携しスマホ・ケータイを使用する時間を決めたりするような働きかけもしております。また、「ノーゲームデー」等を提案したり、「生活づくりシート」を作ったりして、独自で家庭と連携し、取組をしている学校もございます。これからも、学校・家庭が連携した取組を進めてまいります。

8 ページで触れていただいた新聞については、やはり新聞離れが、子どもだけではなく大人も進んでおりますが、本市では「よむ YOMU ワークシート」という取組を実施しております。実際の新聞記事を活用した問題を子どもたちが読んで、読解して問題を解き、その後、それに関連する新聞記事を読む、そういったプロジェクトとして、小学校 5・6 年生と中学校 1・2 年生を対象に活用し、新聞について親しむ、といったような取組も、独自で進めているところです。

また、今年度の新たな取組になりますが、「教育イノベーションプロジェクト」という取組を進めております。この中で、主体的・対話的で深い学びの創造や、情報活用能力等を育む指導の充実など、いくつかのテーマを持って取組を進めております。今年度については、粥見小学校・柿野小学校の 5・6 年生を対象に、情報活用能力の学習の基盤となる取組として、夕刊三重の電子版の活用をしながら、それを学習に活用していく取組を実施しております。成果等については、年度末に発表する機会を設けて、各学校から出席を依頼して、取組の還流を行っていくことを考えております。

◆委員

「よむ YOMU ワークシート」を読んだら、この調査で、新聞を読んだというカウントになりますか。子どもたちは、「1 時間以内」というのも、嘘をつこうと思えばつけると思いますが、正直に答えているのだと思います。動画も、テレビではなくてスマホ等で映画を観たら、これでもう 2 時間かかります。そうすると、これは当てはまっていないな、と回答しますよね。先ほど言われたように、スマホが子どもたちにとって必須のアイテムになってきている場合もあるので、それがこの時間のところで引っかかってくるものなのか、それとも使う頻度のもので引っかかってしまうものなのか。「よむ YOMU ワークシート」もそうですが、新聞じゃないと本当に駄目なものなのか、教えてください。

○事務局

新聞とはこういうものです、という前提があるわけではないのですが、「新聞を読んでいますか。」という質問に対して、子どもたちが「よむ YOMU ワークシート」をやっているからといって、これに丸をつけているということはないと思います。新聞記事を使った問題に取り組んでいます、問題に関連する記事を読んでいるという認識で、新聞を読んでいる、という認識ではないと思います。

○教育長

新聞はペーパーで読むものという概念が、だんだんなくなっているのかもしれないですね。大人は、大谷翔平さんの情報をテレビではなくスマホのニュースで読んだり、子どもたちは、YouTube のどんな踊りを観たり、ということになってきていると思います。その辺りで、タブレットをのべつ幕なしで使っているかということ、そうではありません。本市の端末については、小学生は 21 時、中学生は 22 時になると、インターネッ

す。そういった中で、避難訓練や各学年で行う防災学習等については、各学校で取組を進めております。特に「引き渡し訓練」について、コロナ禍では、人との接触を避けるように対応をしていた期間がありましたので、「引き渡し訓練」も少し止まっていたような部分があるかと思います。自分が以前勤めていた学校では、ちょうどコロナ明けの時期で、学校規模の問題もあったのですが、ただ、経験はしておく必要があるということで、まだ「引き渡し訓練」の経験がない小学校1年生は必ず実施し、もう少し安心できるようになったら、学年を増やす等の手法を考えておりました。土曜日等の休日に行う学校行事の中に絡めて「引き渡し訓練」に取り組むなど、やはり学校によってかなり差異があるように思います。

南海トラフ地震に対する備えが非常に大事なタイミングになっていると思いますので、今後もしっかりと取組を進めていきたいと考えております。

防災訓練の話題をいただいたので、一つご報告をさせていただきます。10月26日に市の防災訓練等が実施されるのですが、その日の夜の7時を基本にして、小中学校の子どもたちが家庭での防災訓練を行う取組を考えております。

午後7時に、持ち帰っているタブレットを使って、市長からのメッセージを動画で観て、その後、防災学習に係る動画を家族で一緒に観てもらって、例えば、「発災したときに、うちはどこに逃げて、どこで集まるのか」というようなことを相談し、タブレットを利用した安否報告を行うという訓練を実施します。能登半島地震の際に、子どもたちの安否情報を確認するのに、すごく大変だったということを聞いております。本市はLTEモデルのタブレットを使っていますので、どこにいても、子どもたちが自分の安否報告をできる状況にあります。子どもたちが、「安全です。」とか「どこで困っています。」というような情報を、タブレットに入力して報告するという取組を予定しております。

○教育長

「引き渡し訓練」については、保護者の方に子どもを迎えに来ていただくことになりますので、保護者の方々のご理解が必要になります。子どもの命に関わることでもあるので、何とかやり方を工夫して実施をしていきたいと考えています。

○教育長

他にございませんか。

(委員から「なし」の声)

○教育長

それでは、最後に事務局から次回の定例会の日程報告をお願いします。

◎事務局

次回の教育委員会定例会でございですが、11月12日 火曜日、午後1時30分から教育委員会室で開催いたしますので、よろしくお願いいたします。

○教育長

これをもちまして、令和6年10月第13回松阪市教育委員会定例会を閉会いたします。ありがとうございました。

午後2時35分 閉会